

予報期間 2月21日から2月27日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 23日は、低気圧が発達しながらアムール川下流に北上し、前線が日本海から北日本付近を通過する。
- 24日は、高気圧が北日本付近に移動し、気圧の谷が東シナ海を東進する。
- 25日は、気圧の谷が日本付近を通過する。
- 26日から27日にかけて、気圧の谷が西日本から東日本に進む。

＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 23日頃は、沿海州付近を発達しながら北上する低気圧の影響で、北日本を中心に荒れた天気となり、低気圧の発達程度等によっては、大荒れや大しけとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

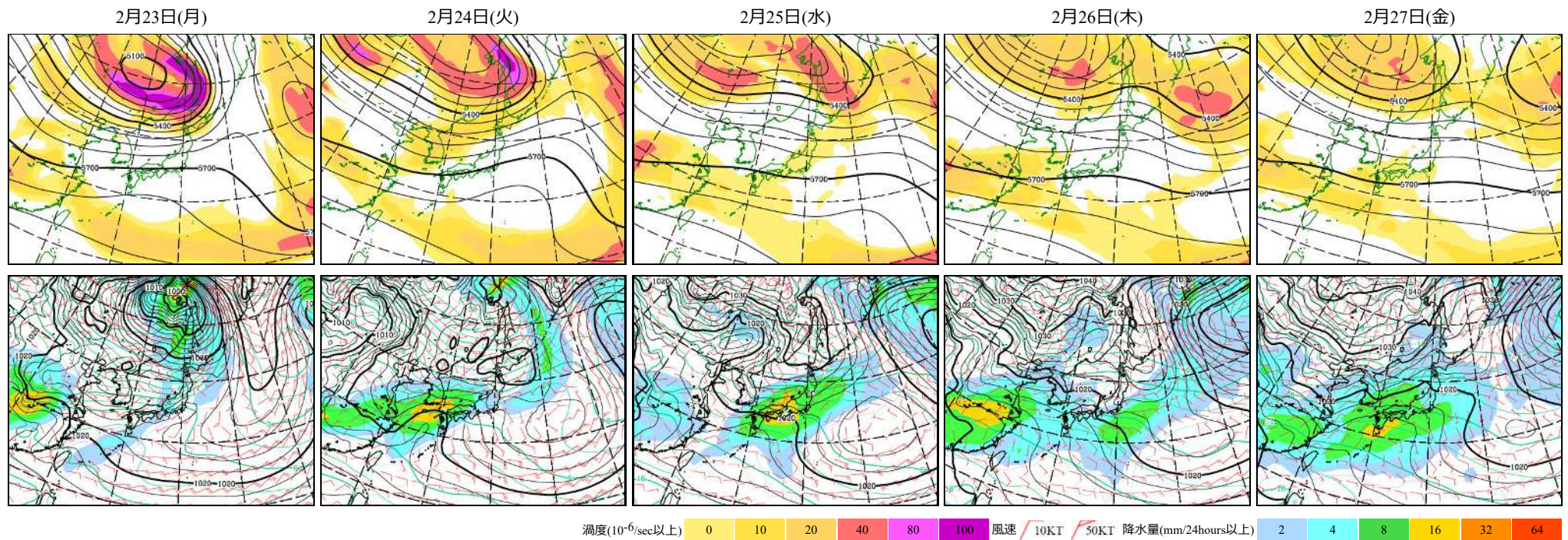
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

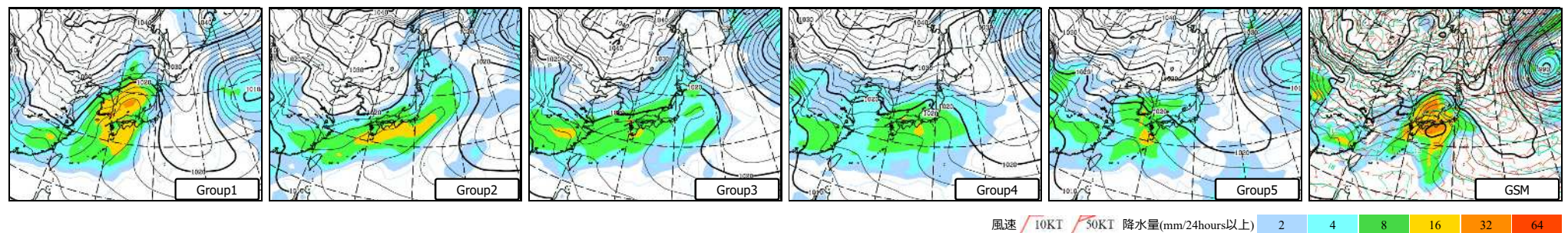


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 西日本と沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、23日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆2月27日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、23日は、高気圧の日本の南への張り出しが強くなった。24日から25日にかけて、日本の北で高気圧が強くなった。
- 25日は各モデル日本の南岸に低気圧を予想するが、日本の東の気圧配置にはモデル間で差があり、26日から27日にかけての低気圧の位置についてもモデル間の差がある。
- スプレッドは期間終わりには大きく、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。